

最先端研究開発戦略的強化事業

最先端研究開発支援プログラムの加速・強化

各研究課題に対する配分額とその理由

| | | | |
|----------|--------------------------------|-------|-------|
| 研究課題 | 複雑系数理モデル学の基礎理論構築とその分野横断的科学技术応用 | | |
| 中心研究者氏名 | 合原 一幸 | | |
| 中心研究者所属 | 国立大学法人 東京大学 | | |
| 研究支援担当機関 | 独立行政法人 科学技術振興機構 | | |
| 主担当議員 | 相澤 益男 | 副担当議員 | 奥村 直樹 |

| | | |
|--------|-------|-------|
| 研究費配分額 | 担当議員案 | 調整会合案 |
| | － 万円 | － 万円 |

| 配分額の理由 |
|---|
| <p>○ 本研究課題は、現在、最先端研究助成基金より配分されることとなっている19.36億円の研究開発費により、最先端研究開発支援プログラムの趣旨に合致した成果が得られる見込みであると考えられることから、今回は追加的な研究開発費の配分は見合わせる事が適当と判断した。</p> |

| | | | |
|----------|-------------------------|-------|------|
| 研究課題 | 免疫ダイナミズムの統合的理解と免疫制御法の確立 | | |
| 中心研究者氏名 | 審良 静男 | | |
| 中心研究者所属 | 国立大学法人 大阪大学 | | |
| 研究支援担当機関 | 国立大学法人 大阪大学 | | |
| 主担当議員 | 本庶 佑 | 副担当議員 | 白石 隆 |

| | | |
|--------|-----------|-----------|
| 研究費配分額 | 担当議員案 | 調整会合案 |
| | 19,500 万円 | 19,500 万円 |

| 配分額の理由 | |
|--------|--|
| ○ | 本研究課題は、最先端研究開発支援プログラムの当初計画から大幅に減額・縮小された研究開発の内容となっているところ、本プログラムの趣旨に鑑み、研究課題を加速・強化し、より有意義な成果を得ることが適切と判断し、本年度の加速・強化のための補助金より1.95億円を上限として、中心研究者に対して加速・強化案の提出を依頼することとした。 |
| ○ | これに対して、以下の内容からなる最先端のイメージング装置導入によるダイナミクス可視化研究の加速・強化を図るとの計画が提出された。 |
| ① | 実験動物体内での細胞間相互作用の時空間制御計測を可能とするマルチフォトンイメージングシステムの導入 |
| ② | 細胞内・間の調節因子の動態を空間分解能100nmで観察することを可能とする超高解像度顕微鏡システムの導入 |
| ○ | 本プログラムの趣旨に照らして、その内容・費用共に適切であることから、本提案を推進することが適切と判断した。 |

| | | | |
|----------|--------------------------|-------|------|
| 研究課題 | スーパー有機ELデバイスとその革新的材料への挑戦 | | |
| 中心研究者氏名 | 安達 千波矢 | | |
| 中心研究者所属 | 国立大学法人 九州大学 | | |
| 研究支援担当機関 | 国立大学法人 九州大学 | | |
| 主担当議員 | 奥村 直樹 | 副担当議員 | 白石 隆 |

| | | |
|--------|-----------|-----------|
| 研究費配分額 | 担当議員案 | 調整会合案 |
| | 19,500 万円 | 19,500 万円 |

| 配分額の理由 | |
|--------|--|
| ○ | 本研究課題は、最先端研究開発支援プログラムの当初計画から大幅に減額・縮小された研究開発の内容となっているところ、本プログラムの趣旨に鑑み、研究課題を加速・強化し、より有意義な成果を得ることが適切と判断し、本年度の加速・強化のための補助金より1.95億円を上限として、中心研究者に対して加速・強化案の提出を依頼することとした。 |
| ○ | これに対して、以下の内容からなる研究課題の中核部分となる熱活性化遅延蛍光および液体有機半導体を用いた有機ELデバイス用発光材料の材料合成と光電子物性の解明および素子化の部分を集中的に強化するとの計画が提出された。 |
| ① | 熱活性化遅延蛍光材料の開発のためのピコ秒蛍光寿命測定装置・ピコ/フェムト秒チタンサファイアレーザー・低温クライオスタット類の装置・電子スピン共鳴装置の導入 |
| ② | 新規遅延蛍光材料の探索と合成のための有機合成及び分析機器類の導入 |
| ③ | 液体有機半導体の界面状態解析のための光電子分光装置(UPS,XPS)、逆光電子分光装置(IPES)の導入 |
| ○ | 本プログラムの趣旨に照らして、その内容・費用共に適切であることから、本提案を推進することが適切と判断した。 |

| | | | |
|----------|----------------------------------|-------|-------|
| 研究課題 | フotonics・Electronics融合システム基盤技術開発 | | |
| 中心研究者氏名 | 荒川 泰彦 | | |
| 中心研究者所属 | 国立大学法人 東京大学 | | |
| 研究支援担当機関 | 技術研究組合 光電子融合基盤技術研究所 | | |
| 主担当議員 | 相澤 益男 | 副担当議員 | 奥村 直樹 |

| | | |
|--------|-----------|-----------|
| 研究費配分額 | 担当議員案 | 調整会合案 |
| | 59,500 万円 | 59,500 万円 |

| 配分額の理由 | |
|--------|---|
| ○ | 本研究課題は、最先端研究開発支援プログラムの当初計画からプロセスラインの強化等が縮小された研究開発の内容となっているところ、本研究課題がより有意義な成果を着実に上げるために、縮小された研究内容を補完することを第一の目的として、5.95億円を上限として、中心研究者に対して加速・強化案の提出を依頼することとした。 |
| ○ | これに対して、以下の内容からなるプロセスラインの強化、プロセス技術の早期確立、基盤技術開発のための設備・試作の強化を行い、超高速動作と超高密度実装による、世界最高光配線集積度の達成可能性を実証するとの計画が提出された。 <ul style="list-style-type: none"> ① プロセスラインの強化 ② プロセス技術の早期確立 ③ 基盤技術開発のための設備、試作の強化 |
| ○ | 縮小された研究内容を補完するためには、その内容・費用共に適切であることから、本提案を推進することが適切と判断した。 |